

公・私立を合わせた平均年齢の推移をみると、昭和46年度29.4歳、昭和49年度29.5歳で、この4年間の推移はほぼ一定である（平均年齢は「学校教員統計調査」(昭49)による。).

本務教員の平均経験年数を昭和49年度においてみると、公立幼稚園で6.6年、私立幼稚園で6.0年となっている。なお私立幼稚園については男子教員が13.7年と長く、女子教員の5.2年を大きく上回っている。

また、経験年数5年未満の教員の占める割合は、公立幼稚園で54.8%、私立幼稚園で61.3%とそれぞれ半数以上となっている。

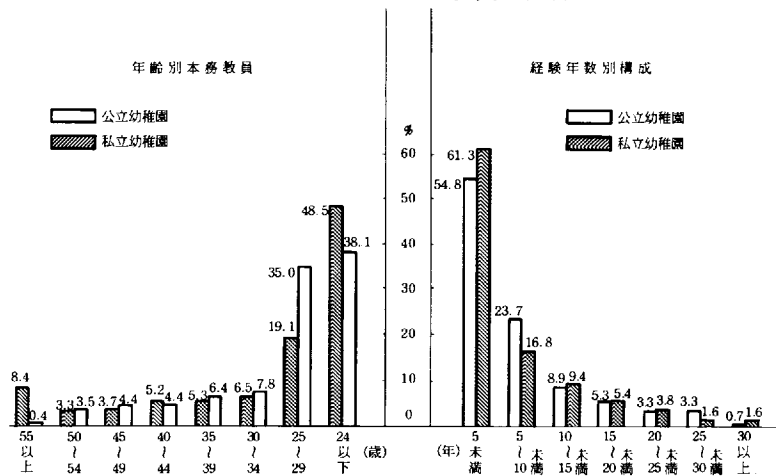
これに、経験年数が5年から10年未満の教員を加えると、公立幼稚園においては78.5%、私立幼稚園においては78.1%を占めることになる。

従って、公・私立幼稚園の本務教員は経験年数10年未満の者がともに、約78%を占め、経験年数は一般に短いといえる（図2-1-10）。

次に本務教員の離職状況を昭和48年度においてみると、離職教員数は公立幼稚園29人、私立幼稚園125人、合計で154人となっている。

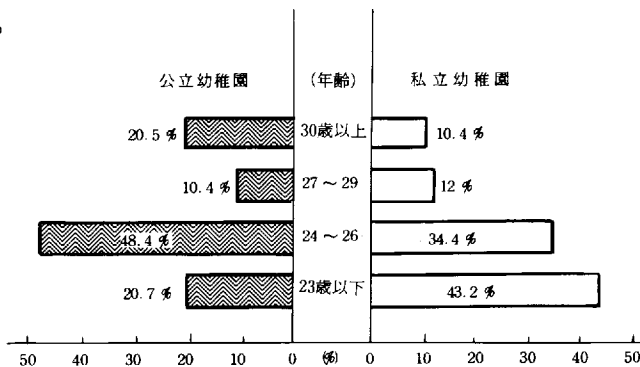
これを年齢別にみると、公立

図2-1-10 年齢別・経験年数別本務教員の割合



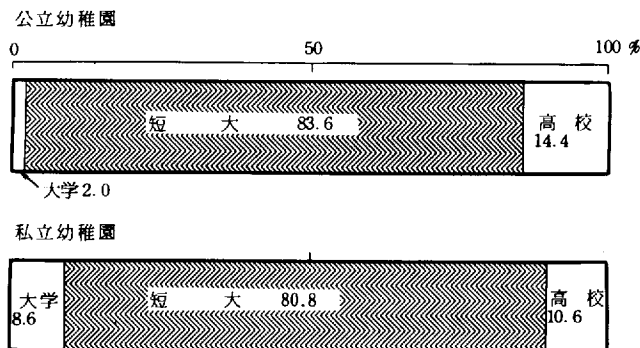
- 注：1. 「教育調査報告書」(昭49)による。
- 2. 年齢別教員の割合 = (年齢階級別教員数) ÷ (本務教員数) × 100
- 3. 経験年数別教員の割合は2.と同様である。

図2-1-11 幼稚園教員年齢別離職教員数



- 注：1. 「教育調査報告書」(昭49)による。
- 2. 離職率 = (離職教員数) ÷ (本務教員数) × 100

図2-1-12 幼稚園教員学歴別構成



- 注：1. 「教育調査報告書」(昭49)による。
- 2. 構成比率 = (学歴別構成教員数) ÷ (本務教員数) × 100